驛遞局認可　明治十九年十二月十一日　やまと新聞第五十二號附録

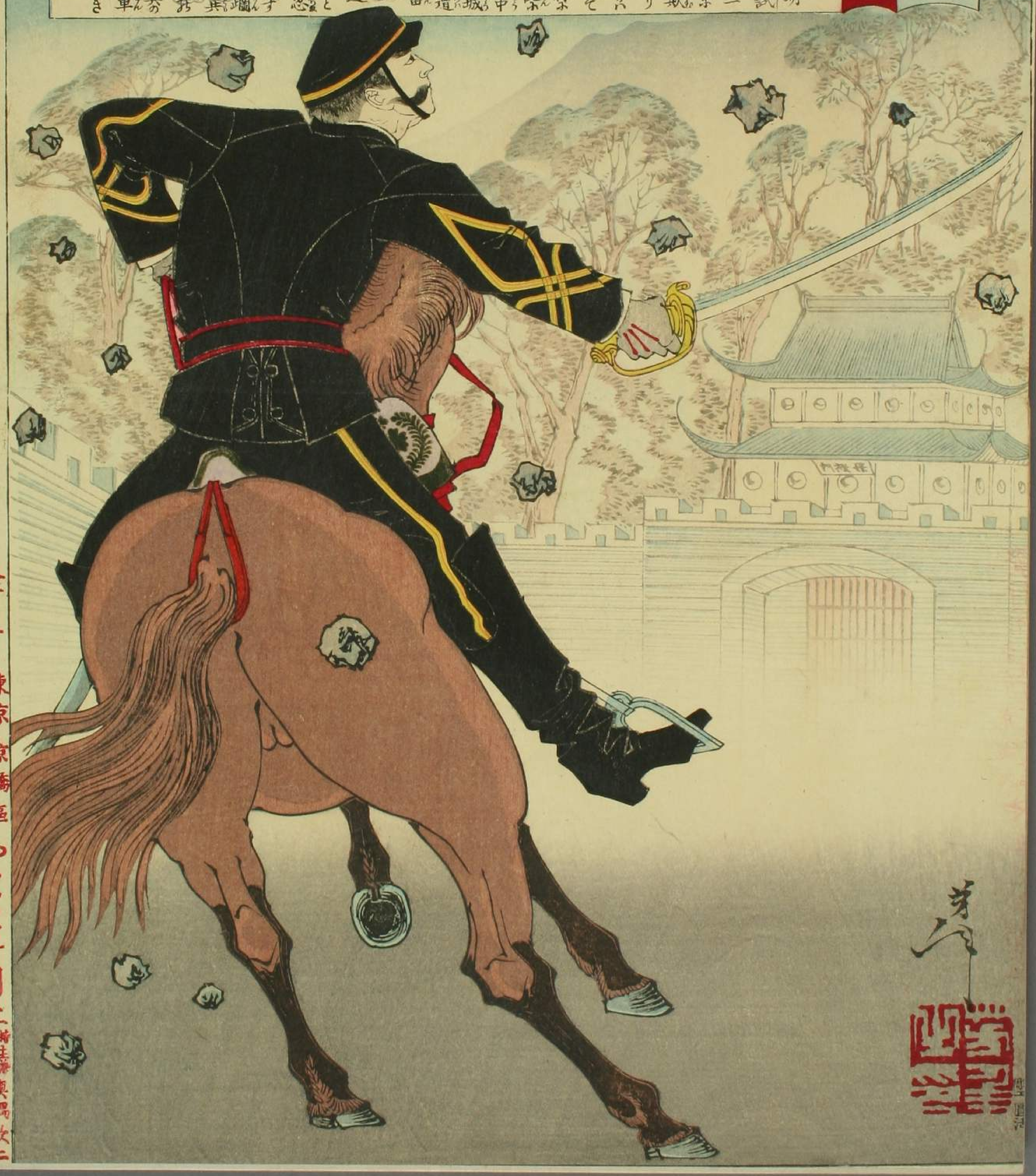
近世人物誌

やまと新聞附録　第二

磯林大尉

歩兵大尉磯林真三君は高知の人なり明治四年藩兵に入りて上京し七年陸軍少尉試補に拝せられ累遷して中尉となる十一年八月近衛諸兵の暴動に際し君單騎にして竹橋の兵營に至り甘言を以て暴徒を欺き　皇居の門外に誘きて悉く之を捕へたり當時の人皆君の强膽と機敏とに驚きたりしが十五年七月朝鮮の變あり君命を奉じて韓地に入る其後公使館附となり尋で大尉に拝せらる十七年十二月京城の乱起る君此乱に先だちて江原道の諸要地を巡覧す其途中公使竹添君の發したる變報に接し急ぎ京城に至らんとす時に護衛の韓官金某其難に遭んを慮れ路を轉じて仁川に出んと勧む君奮然叱して曰く我は公館護衛の軍人なり今や我が公使の急難に罹ると聞く奚んぞ他方に避るをせん汝等日本武官の為す所を見よと馬に鞭ちて直ちに駛せ南大門に對ふ忽ち暴民數百あり八方より群り起り石を飛すこと雨の如し君大声叱咤馬を躍らして蹂躙す然れども衆寡敵せず其隨行者二名其に遂に乱石の下に斃る噫痛しい哉惜む君が碧血は空しく雞林の野を浸すと雖も其の功烈は金石に録し史籍に輝きて千秋軍人の亀鑑となすべし君も亦以て瞑すべきなり

野馬臺生識す



芳年

東京京橋區やまと新聞社　印刷兼編輯人　眞隅敬二